

ふるさとの潮の遠音のわが胸に

ひびくをおぼゆ初夏の雲

歌 意

初夏の青空に浮かぶ白い雲を見ていますと、いつしか胸の中にふるさとの潮の遠音が響いて来るように思われます。

掲出歌集 『舞姫』明治39（1906）年1月  
初出 「明星」明治38年6月 題は「はなたちばな」  
（晶子27歳）

